

平成22年度リアルタイムFD報告

毎回の学習サポート終了後、サポーター(院生)から「学習支援報告書」がウェブ上で提出される。この報告書中の「支援内容」「特につまずいていた点」「学生の取組の様子や気がついたこと」を、サポートした科目の担当教員にメールで転送する。有用な報告を授業改善や学習指導などの教育活動に役立てることが目的である。

〔例〕学習支援報告書(個別学習サポート・リアルタイムFD版)

2010年度1学期

【サポーター】M1 経営情報システム工学

【対象学生】経営情報システム工学 B2 学生111、学生110

【サポート回数】2

【日付および時間】2010-05-18(14:40~16:40)

【出席者】学生111、学生110

【学生の取り組みの様子や気がついたこと】

【支援した科目名】

【支援した科目の担当教員】

【支援内容】

【特につまずいていた点】

[目次]

- (1)リアルタイムFD(学習支援報告書転送)実施状況
- (2)教員アンケート結果、及び改善した点
- (3)教員オフィスアワー(質問受付可能時間帯)参照・予約システム構築
- (4)そのほかに改善した内容
- (5)来年度の改善点

(1)リアルタイムFD(学習支援報告書転送)実施状況

サポーターによる学習支援報告書登録と同時に支援システムより自動転送した。

■対象科目数

	1学期	2学期	3学期	合計
専門基礎科目(1,2年)	27	40	3	70
専門科目(3,4年)	55	15	0	70
教養科目	8	2	0	10
外国語科目	6	3	2	11
合計	96	60	5	161

■対象教員数

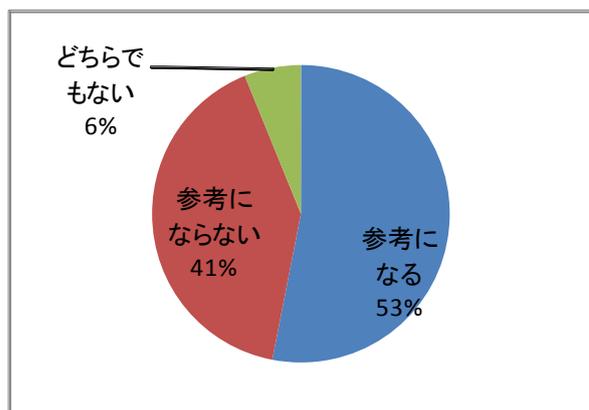
	1学期	2学期	3学期
専任教員	120	79	4
非常勤講師	8	5	2
合計	128	84	6

(2)教員アンケート結果、及び改善した点

■1学期アンケート 回答 49名

問1 リアルタイムFDは先生ご自身が行う教育(授業や学生指導など)の参考になりましたか？

参考になる	参考にならない	どちらでもない
26	20	3
53%	41%	6%



問2(「参考になった」とお答えの方へ) 具体的にどのように参考になりましたか？ 授業や学生指導において、実際に行ったことがあれば、どんな些細なことでも結構ですので、それもぜひお知らせ下さい。 回答28名

◇参考になった点

- (ア) 学生への対応の必要性を認識した 3名
- (イ) 授業の改善すべき点がある程度わかった 3名
- (ウ) 学生の理解度を知った 3名
- (エ) 特につまずいている点があった 10名
- (オ) その他 1名

◇実際に行ったこと 8名

授業での補足説明・解説、説明に時間をかける、説明を少し詳しくする、授業で理解度を確認する、授業スピードの考慮、理解のための課題を増やす、課題の締切を延ばす

問3(「参考にならなかった」とお答えの方へ) どうして参考になりませんでしたか？ 今後の改善に生かしたいので、理由をぜひお知らせ下さい。 回答21名

◇参考にならない理由(重複回答あり)

- (ア) 報告書の記述内容が不十分、具体性がない、同じ内容の繰り返し 12名
- (イ) 学習支援を受けている学生のレベルがわからない 1名
- (ウ) 現状以上の授業改善は困難 1名
- (エ) 特に新しい情報、授業の本質に絡んだ情報がない 2名
- (オ) リアルタイムFD(学習サポート)になじまない科目 1名
- (カ) その他(自分の担当授業ではなかった、該当するメールを選び出せない、取り組みを知らなかった、ほか) 5名

◇リアルタイムFDの改善への意見(学生の理解度レベルの把握、直接教員に向かわせる)
2名

問4 リアルタイムFDへのご意見、ご感想などがあれば、お聞かせください。 回答 35名
(省略)

(以上、1学期)

●以上のアンケート結果により、改善のため2学期に以下を行った。

1. リアルタイムFD及び学習サポーター制度(教育GP)の取り組みの認知度を向上させる。

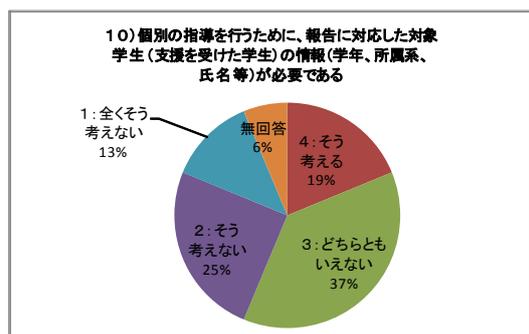
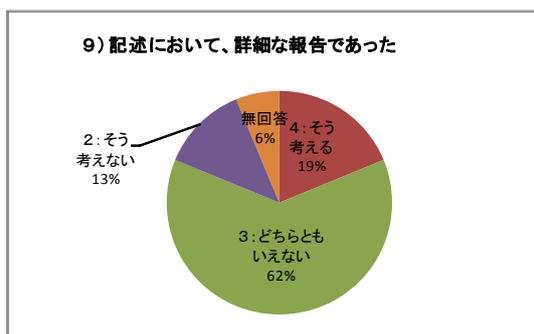
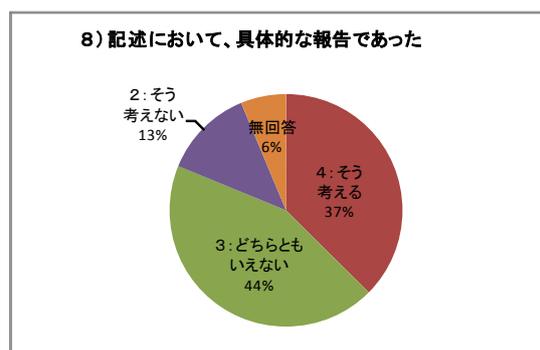
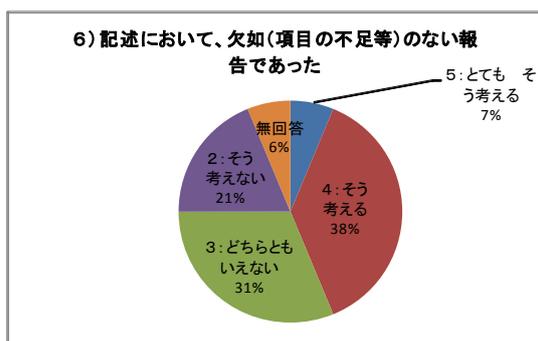
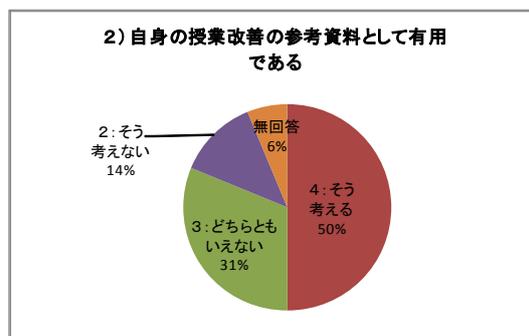
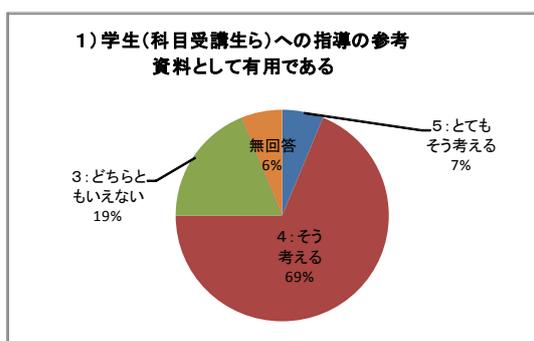
2学期初めに全教員に取り組みの案内を配布した。そこにリアルタイムFDへの協力依頼を添えた。

2. 学習支援報告書の記述内容の向上をはかる。

2学期はじめのサポーターガイダンスで学習支援報告書のよい記述例を示し、サポーターを指導した。

■2学期アンケート 回答 16名

問1 学習支援報告書に関して、お考えを5段階でお聞かせください。(抜粋)



問2 問1の1)、2)の事例につき、よろしければ具体的にお知らせください。(抜粋)

・学生が理解できていない授業内容をリアルタイムFDによって知ることができ、その内容をすぐに次回の授業で補足説明を行い、学生の理解度を向上させることは非常に有用であると考えます。また、次年度の講義にその内容を反映させることができ、授業改善に有用である。

・今期は演習課題を課す機会が少なかったため、来期は本システムを活用できるような演習課題の作成に取り組みたいです。

◇改善への意見

・現在の相談数では授業改善などの参考となるには不足だと思います。良い制度ですのでもっと利用件数が増えてきて、相談内容が具体化してくれば授業内容を修正することができるかと期待します。ただし、シラバス作成段階でリアルタイムFDに対応して内容を修正することを明記あるいは最初から修正が可能な程度に余裕のある内容にしておく必要があるかと思えます。

・学習支援報告書自体を大学で共有するだけではほとんど意味がないと思います。もしも共有するのであれば、学生の習得状況を整理、分析し、学生ごとの理解度などを記載したカルテのようなものを作成して、その情報を学生個人、および関連する全教員が共有し、学生の履修・指導に反映させるようなシステムを構築する必要があるかと思えます。

問3 リアルタイムFDへのご意見、ご感想などがあれば、お聞かせください。(抜粋)

・具体的な細かい質疑応答の内容がわかれば、個々の学生の氏名はなくても有用となる。なぜなら不特定多数の学生がよくやる間違いパターンとか、疑問のパターンを問う格好になるからである。誰が相手でも授業改善の参考になりうる。そこまでの詳細な情報はこれまで報告されていない。相談内容が具体的でない場合、どの学生が何を気にしているのか(個人名)を知ることができれば、授業中にこちらから問いかけ更に詳しく指導することが可能である。ただしそのような教員と学生との接し方を嫌うようであれば、上手く機能しない。図書館で相談を受けた時に、授業担当者へなぜ聞きに行かないのかを問いただすことをやってもらいと、違った指導をできるかもしれない。

・教員からサポーターへ連絡を取る手段があった方がよいと思います。

(以上、2学期)

(3) 教員オフィスアワー (質問受付可能時間帯) 参照・予約システム構築

(2学期)

授業担当教員に直接質問に伺ってよい時間帯を対象学生が問い合わせるメールを、共通教育センターのシステムから報告書登録時に送信する。この機能を2学期にシステムに整備した。

サポーターが対応しきれない質問が出たりするなど、対象学生が直接教員のところに行った方がよいと判断される場合に利用する。オフィスアワーの公開されている教員にはその時間帯の都合を、そうでない教員には都合のよい時間帯を問い合わせることができる。

(4) そのほかに改善した内容

1) 個人情報の扱いとコンフィデンシャルティ(confidentiality・相談内容の秘匿)

A. 「サポーター業務内容と業務上の注意」を作成し、以下のように必要な内容を明記した。これをサポーター採用者(院生)に配付するとともに、学期当初のサポーターガイダンスで周知を図った。

1. 業務内容(部分)

(2) 学習支援の内容は、基礎科目や専門科目の授業の理解、課題や宿題を解く上でのアドバイス、レポートの作成法や試験対策・勉強の仕方への助言などとする。このほかに、履修申告や課程配属、研究室配属に関する質問などに先輩として答えてもよい。

(3) 毎回のサポート終了後、速やかに、共通教育センターのホームページ上で「学習支援報告書」を作成・登録する。支援内容は各実施責任者、共通教育センターの学習サポーター制度担当者、及び支援科目の担当教員に報告される。これらの教員が、それを学習指導の参考資料として利用することがある。

2. 業務上の注意(部分)

(1) 学習サポート業務上知り得た対象学生の個人情報(氏名, 連絡先, 成績など)については秘密を守ること。

B. 学生には「学習サポートを受けませんか」(学習サポートガイド)中にサポート内容が実施責任者・制度担当者・科目担当教員に報告されることへの同意を求める記述を行った。

C. 学習支援報告書(リアルタイムFD版)においては、対象学生を匿名とし、任意の番号で表示した。同じ学生が同じ番号で表示されるので、科目担当教員は支援を受けた学生が区別できる。

2) サポート方法と報告書の記載法

A. 「サポーター業務内容と業務上の注意」を作成し、以下のように必要な内容を明記した。これをサポーター採用者(院生)に配付するとともに、学期当初のサポーターガイダンスで周知を図った。

2. 業務上の注意(部分)

(2) 学習支援において、対象学生に代わって課題や宿題に解答したり、レポートを作成したりすることがあってはならない。このような代筆相当の行為があった場合は、その時点で当該サポーターの任用及び対象学生の学習サポートは中止する。

B. 学習支援報告書を具体的に記述するよう、学期当初のサポーターガイダンス、学期途中のサポーター打合会で、サポーターを指導した。

3) 支援ウェブシステム

A. 学習支援報告書の転送を、サポーターによる登録と同時にシステムから自動で行うようにした。また、報告書を蓄積し、科目担当教員がシステム上で閲覧できるようにした。

B. 支援科目数と支援学生数の統計機能を作成した。

(5) 来年度の改善点

1) 学習支援報告書の記述内容の向上を図る。今年度構築した「個別の学習プロセス作成支援システム」上で、学習支援の内容がより詳細に記述されるよう改良した報告書フォーマットを試行し、教員の意見を求める。

2) 学習支援において、対象学生・サポーター・教員相互のやりとりが可能となるように、学習サポーター制度における対象学生・サポーターの匿名性を再検討するとともに、構築した支援システムの一層の活用を図る。

以上